

図1 QGISのバッチ処理機能を使って複数の建物データのXY座標変換を一括で行っている様子

本連載では、地図データに関する情報や、関連する ソフトウェアについて紹介してきました. その際に、 無償のGIS (Geographic Information System) ソフト ウェアである QGIS をたびたび使ってきました.

PLATEAU(日本全国の3D都市データ)などの,さ まざまな地域のデータが公開されているオープン・ データから,いろいろな箇所のデータを作成する場 合,GISソフトウェアにて,同じような処理を繰り返 し実施する必要があります.

QGISには同じような処理を一括して実施する2種 類の方法があります.GUI上で操作するバッチ処理と Python言語で処理を記述することで実行されるスク リプト処理です.

今回は初学者にも取り組みやすい,バッチ処理の使 い方を紹介します.

● 今回やること…QGISのバッチ処理機能で 建物データを一括取り込みしてみる

例として、PLATEAUの533957エリア(葛飾区付近)におけるCityGML形式の建物データ⁽¹⁾、
53395700_bldg_6697_op2.gml
53395710_bldg_6697_op2.gml
53395720_bldg_6697_op2.gml
53395730_bldg_6697_op2.gml
53395731_bldg_6697_op2.gml
を shape ファイルに変換する処理を挙げます。第20
回 (2021年9月号)でも紹介したとおり、CityGMLファイルに対し、①XY座標の変換処理、②ジオメトリの
修復処理を行い、shapeファイルとしてエクスポート
する手順が必要です。このうち①と②の手順に対し、
バッチ処理が使用可能です。まず、QGISにドラッグ

 第16回
 離れた場所にあるGPS受信機の位置を手元のPCでリアルタイムに可視化する(2021年2月号)

 Interface
 2021年11月号
 第17回

 第18回
 地域ごとの傾向をヒートマップで表現する(2021年5月号)